3 詩文

単元のねらい

「漢文入門」「史伝」の単元によって訓読や句法など漢文読解の基礎を段階的に固めてきたことを受けて、漢詩文ならではの美的表現を学ぶために、古くから日本でも親しまれ、日本語・日本文学に大きな影響を与えた唐の詩と文章を取り上げる。

詩については、五言と七言、絶句と律詩といった形式面での違いが、それぞれの詩の表現の特徴とどのようにかかわるか、考える。また、二字・三字の意味のまとまりが組み合わされて一句が構成されること、対句による対偶の美が積極的に用いられていることを学び、漢詩読解の導入とする。

文については、古文・駢文ともに、簡潔で整然とした表現のベースに対比的発想があることを学び、主題の提示から結論に至る構成について、段落相互の関係を図示するなどして理解する。

詩と文のいずれの作品についても、制作の時代的・個人的背景を視野に入れて、描かれた状況や心情を考えることで、それぞれの作品の主眼がどこにあるか、それがいかに表現されているかを学ぶ。

全体を通じて、古文の単元で学んだ日本語・日本文学との関連性や対照性を意識し、日本語・日本文学の世界において漢詩文が果たした役割の理解への導入とする。

単元の構成

漢詩文の言語表現の特徴を、絶句・律詩・古文・駢文の四つの形式の順で学ぶ。絶句八首は主題ごとに、

季節描写から心情を浮かび上らせる「四季」、友との別れという身近な題材をうたう「送別」、離れた土地から詩によって思いを伝えようとする「望郷」にわけて、五言と七言をバランスよく配置した。律詩は、杜甫と白居易、それぞれの天分を示す名詩を一首ずつ取り上げ、律詩の構築美と深い心情表現とを味読できるようにした。日本漢詩は、漢詩が中国の事物だけでなく、日本や西洋の自然や歴史も題材とし得ることを、七言絶句二首で示した。

文は、内容面での構成がしっかりした韓愈の古文と、対句の美しさがきわだつ李白の駢文とを一篇ずつ取り上げた。

単元のまとめとなる「言語活動」においては、ここで学んだ漢詩文の表現の特徴を改めて意識させるために、漢詩らしさ、漢文らしさとは何だろうかという問いを立て、それが日本語の世界とどのようにかかわるかを探究させる。あわせて、漢詩文を学ぶ意味についても考えさせたい。